

令和4年度の主な事業報告

社会福祉法人 旭生会

社会福祉事業

令和4年度は令和3年度と同様に新型コロナウイルス感染症との戦いを継続しながら、既存事業の強化を中心に取り組んだ1年間であった。

新型コロナウイルス感染症については、特に特別養護老人ホーム旭ヶ丘園で大規模なクラスターが発生し、利用者ならびに職員に多数の感染者が発生。また、抵抗力の低い利用者様に関しては、お亡くなりになる事例も発生した。

法人全体としては、新型コロナによる利用控えや経費の高騰等の影響がある中でも着実な成長を遂げている。

特に訪問介護が著しい成長を見せた一方で、通所サービスや入所系サービスでは人件費の増加、物価高騰の影響やコロナによる稼働率低下などの影響を受け苦戦を強いられる時期もあった。

昨年度オープンしたグループホームに関しては、今年度は安定した稼働となった。今後は人件費等の支出の適正化を進めていきたい。

公益事業

特に訪問看護では、令和4年度も順調に新規利用者を獲得し、昨年に引き続き大きな成長を遂げた。特に医療保険対象者の増加が目立った。

居宅介護支援については、収入は増加傾向であったが、人件費の上昇を賄うまでには至らず増収減益となった。今後は、ケアマネージャー一人当たりの担当件数を増やすために事業所を挙げてオペレーションの構築をしていくことが課題となっている。

有料老人ホーム事業においては、重度者対や医療対応が必要な利用者へのサービス提供に特化して活動を行った。見取りの件数は前年度の5名から10名と件数増となり、医療保険対象の入居者も前年度の8名から10名と増加傾向であった。利用者の重度化や個別ニーズへの対応が要因となりオペレーションが煩雑となっているため、今後センサー等の機器を導入すべく検討を進める予定である。合わせて入居者の健康管理や肺炎予防、退去後の空床期間の短期化などの取組を強化していく所存である。

収益事業

不動産賃貸事業については、特段の状況変化もなく安定した運営となった。